

令和 8 年度 シラバス

教科名 情報

愛媛県立宇和高等学校

情報Ⅰ

愛媛県立宇和高等学校

教 科		情 報		単位数	2		対象	普通科1年		
使用教科書		情報Ⅰ (日本文教出版)		副教材 等				履修	必修・選択	
授業の概要				到達目標			履修の条件・進路			
情報を効果的に収集・判断・表現・処理・創造できる技術を養わせるとともに、情報技術を活用したコミュニケーションを実践的に身に付けさせる学習をします。また、社会における法規や制度及びマナーを理解し、情報モラルを養うための学習をします。				他者に情報を伝えるために必要なソフトウェアを、ある程度使用できるレベルを目指します。 情報技術の有用性と危険性を理解し、情報社会に主体的に参画する態度を養うことを目指します。			条件はありません。必修科目ですので、休まずに受講をしてください。 授業の演習でタブレットパソコンを使用します。			
学 習 の 年 間 計 画	月	単 元 名		学 習 内 容				メ モ		
	一 学 期	1章 情報社会の問題解決		1 情報の特性 2 メディアの特性 3 問題解決の考え方 4 法の重要性和意識				・ソフトウェアを活用し、情報の整理、資料作成を行う。 ・目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えさせる。 ・情報に関する法規や制度について理解させる。 ・情報の特性と情報技術の発達による社会の変化について学習し、個人に求められる情報モラルについて考えさせる。 ・メディアの特性とコミュニケーションの変化について理解させる。 ・ピクトグラムを活用し、情報デザインの工夫について考える。		
		第2章 コミュニケーションと情報デザイン		1 メディアとコミュニケーション 2 情報デザインと役割 3 情報のデジタル化						
	二 学 期	第3章 コンピュータとプログラミング		1 コンピュータのしくみと処理 2 アルゴリズムとプログラム 3 モデル化とシミュレーション				・コンテンツを作成させ、相互評価をさせる。 ・情報のデジタル化やデータの圧縮について、理解させる。 ・OS、ハードウェア、データの扱い方について理解させる。 ・アルゴリズムでプログラミングの基礎を理解させる。 ・実習を通じて、でプログラミングの基礎技能を身に付けさせる。 ・モデル化の方法や目的について学習し、実習を通じてモデルを利用した問題解決について理解を深めさせる。 ・データ伝送のしくみと、情報セキュリティの重要性について理解させる。		
		第4章 情報通信ネットワークとデータの活用		1 情報通信ネットワークのしくみ						
三 学 期	第4章 情報通信ネットワークとデータの活用		2 情報システムとデータベース 3 データの活用				・データベースを活用した問題解決能力を身に付けさせる。 ・情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考えさせる。			
学 習 方 法	【授業】 コンピュータに対する苦手意識を無くさせ、コンピュータを嫌いにならないような授業展開にします。その中で情報モラルを身に付けさせるとともに、情報社会において必要な知識や技術を習得させていきます。なお、座学と実習を半分ずつ行い、ノートについては、授業プリントをファイルする形式をとります。 【予習・復習】 随時、必要だと思うことを、教科書や端末を活用し、予習・復習をしてください。									
評 価 の 観 点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	情報社会及び情報技術のしくみや、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報を適切に活用するために必要な技能を身に付けているか。			事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けているか。			情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を身に付けているか。			
評 価 方 法	※上記の3つの観点を基に、学期ごとに評価する。			1 学期		2 学期		3 学期		年度末
				(評価方法) 提出物、授業態度、定期考査、演習などを参考に、上記の3つの観点から総合的に評価する。			1・2・3 学期の平均			
到達目標に対する自己評価 (A・B・Cの3段階)										